口　絵

はじめに――『妹の力』の系譜　1

第一章　霊力をもつ女

国を治める巫女　7

卑弥呼の後裔たち　7　赤色の呪力　11　現人神の顕現　13

御田植神事における巫女　14

天皇に代わって神に奉仕した皇女　15

斎王の祭儀――伊勢神宮と賀茂社　15　斎王の恋愛譚　19

酒を造り捧げる乙女　21

酒をつくる乙女　21　神に捧げる一夜酒　25
酒造りから排除される女性　29
神饌を捧げる乙女　31
「御膳持ち」・「一夜官女」の神事　31　年神祭の神饌調進　36
神衣を織る織女　39
衣服を神に捧げる風習　39　棚機と七夕の祭り　41
文芸を創作する女　44
「巫女文学」と「女房文学」　44　「女房文学」の中の妖怪譚　46
芸能を担う女　49
神楽を舞う巫女――芸能の原初形態　49　巫女の託宣と予言　51
神事から芸能へ――歌舞伎の発生　53
女の家・女の天下・女の座　55
五月五日は女の日　55　女の節供から男の節供へ　56
雛人形・雛飾りの変遷　59　宮座と「女座」　60

宮座における「女の家」 62
諸神諸仏を祭る女 64
家の神仏の司祭者として 64　地蔵講と淡島信仰 66
女性の善光寺参り 69　彼岸会の営み 70
「月待」の女性サークル 72
福を招く女 74
幸福の相・おかめとヒョットコ 74　「招き猫」の誕生 77
恨みをのむ女 79
女の怨念と幽霊譚 79　井戸と橋——幽霊出現の場 83
妖怪の中の女 85
第二章　才覚をもつ女
勘と骨と加減を知る 93
カン・コツ・カゲン 93　食生活の変化と回帰 95

旬を着る・旬を食べる　98
旬を着る　98
旬を食べる　101
節供の食と土用鰻　104
餅・団子の贈答と献上　107
旬を遊ぶ少女　111
贈るならい・かたちを弁える　117
カミとの交歓　117
人と人との交歓　119
学び嗜む　122
寺子屋と女性の手習い　122
女性の嗜みと教養　124
子弟を教育する　128
家庭教育を担った女性　128
「いろはかるた」の教え　131
和歌の伝統の継承　126
子どもの成育を願う　138
絵馬に込められた願い　138
鬼子母神と地蔵尊　140
呪物に託す祈り　143

婚姻を主導する　190
「よばい」の習俗　190
女性の名前　196
食を管理する　198
主婦の権限　198
味噌・醤油の味加減　201
ハレの日を司る　203
旬のまつり　203
大正月　204
七日正月　206
小正月　208
節分　210
三月節供　213
五月節供　215
虎が雨　216
七夕　218
盆　220
お月見　222
針供養　224
あとがき　227

美を求める　144
畳と裾模様の美学　144
菱刺しと裂織の美　147
露地の美学　149
涼を誘う　152
浴衣の美　152
下駄の効用　155
団扇の風流　158
装いと流行　159
ファッションを演出する　161
小袖と帯　161
鬢と櫛　163
帽子・鉢巻と襷　166
第三章　技量をもつ女
女紋をもつ　173
女紋と嫁入道具　173
礼装と呪術　177
ヘソクリをつくる　179
ヘソクリの起源　179
「ホマチ」という内緒金　181
絆を固める　184
盃事と婚姻方式　184
「一味同心」の絆　188